

## 京丹後市学校再配置基本計画(素案)説明会

- 1 開催日時 平成 21 年 7 月 17 日 (金) 午後 7 時 32 分～9 時 7 分
- 2 開催場所 奥大野公民館 2 階和室 (大宮第二小校区)
- 3 出席者 中山市長、米田副市長、大下副市長、米田教育長、和田市民部長、渡部企画総務部長、藤原財務部長、水野教育次長、田上企画総務部次長、太田市民局長、高橋教育理事、増田学校教育課長、土出社会教育課長補佐、数多教育総務課長補佐、白杉指導主事、坪倉教育総務課主任 16 名  
地元出席者 47 名

報 道 毎日新聞

### 4 内 容

- (1) あいさつ
- (2) 資料説明 ①京丹後市学校再配置基本計画 (素案)  
②京丹後市立学校施設の耐震化計画 (素案)
- (3) 質疑応答

### 5 要 旨

市長あいさつ、京丹後市学校再配置基本計画 (素案) 説明、京丹後市立学校施設の耐震化計画 (素案) 説明 省略第一回目を参照。

#### 質疑応答

(市民局長) 教育委員会の説明が終わりましたので、質疑の時間に入ります。発言者は挙手のうえ、マイクを持っていきますので、その後発言をお願いします。どなたからでもお願いします。

(出席者) 大宮は合併する時に、最初は第一、第二の 2 校の予定だったのですが、どうしても五十河地区の過疎化に拍車がかかるということで 3 校になったといういきさつがあります。第二小については存続する訳ですから反対意見はほとんどなかろうかと思うんですけども、昨日第三小は終わられたということで、差し支えなければ反対意見やその他の意見を聞かせていただければと思います。それと生徒の人数が分からないのですが。

(教育長) 昨日出ております意見を覚えている範囲で言いますし、足りないところは補足してもらいます。

・前回統合するとき論議を重ねた。当時の町長もこれで学校を触ることはないという約束をされたが、その約束は引き継がれているのか。

・小規模校というけれども、現在学校は先生、子ども共に上手くいっている。かつて複式のときも修学旅行について学校が一生懸命取り組んでくれた。小規

模の良さが十分発揮できている。

・学校が無くなるということについて、地域が寂れていく。学校は地域の活性化の源になっている。

人数についてですが、現在の大宮第二小学校は 103 名、大宮第三小学校は 41 名で合計 144 名です。第一小学校は 549 名です。平成 25 年には第二小学校が 90 名、第三小学校は 37 名になって 127 名になっております。学年別では 1 年生、2 年生が各 20 名、3 年が 16 名、4 年が 25 名、5 年が 26 名、6 年が 20 名ということで、20 名規模というのはいくつか維持できます。しかし 27 年には 10 数名のクラスが半数になります。最低は 15 名、16 名、18 名というクラスが 3 つ出てきます。人数の減少になかなか歯止めがかからないという苦しさがあるかと思えます。20 年、30 年先を見たら、1 校で良いのではないかという意見が出ていたほどです。

(市長) 教育長が言われたことに補足して、以下のような意見もありました。

・過疎化のことで本市の南の玄関口である学校が無くなってしまおうということについてどうなのか。

・第一小学校も分ける形で第一、第二、第三をほぼ規模が並ぶような形にする分け方もあるのではないか。

反対の意見が多かったが、保護者から早く統合して欲しいという意見もございました。終わった後にそういったことを直接言われる人もいました。

(出席者) ご苦労様でございます。第一小学校が圧倒的に多いんですね。第二、第三を全部合わせても 150 人で第一だけで 500 人以上いるので、網野南小のように第一小の一部を加えるということも一つの案として考えております。昨年 11 月に答申が出ていると思いますが、それについて 6 月議会に上程されるのが持ち越され、9 月議会にはと期待しておりました。再配置については賛成なんです。確かに丹後には沢山学校がある。9 月議会でもオミットということになると、なかなか統合できないのではないのかということがある訳です。生徒数がだんだん減ると教育長はおっしゃいましたが、これは分からないんです。増えるかもしれないんです。網野町がやった北小、南小のようにやったら良いのではないかと思います。それと 3 月の議会に出さなくてはならなくなったという点について明確な回答をお願いします。

(市長) 6 月からこの間 9 月議会にもなかなか、ということについてですが、再配置については子どもたちの教育にとって何が良いのかということについて考えていく訳ですけれども、併せて経費が安くなる面と校舎の増設等経費がかかってくる面とあり、古くなっていく校舎が多いために耐震をどうしていくかということがある訳です。経費がかかる面について、一番合理的な組み合わせを考え

ていく要素もあり、本市が抱える負担と共に助成制度がどうなっているかというの大きな要素となっております。助成制度がだんだんと充実していった、3分の2の負担となった1月の時点では6月を目途にしていたのですが、4月末の段階になってさらに3分の1の負担についても国の経費から充てることができると格段の充実があり、同時に国から現に使用している校舎については、将来仮に統廃合することがあったとしても速やかに耐震化を図って下さいという指導が5月にありました。この補助金を使うことが出来れば市町村の負担は原則として0という計算になるので、そういう計算で耐震化を優先させてくれという国の新たな指導だったものですから、それが教育長からありましたIとIIのことで、再配置計画（案）への影響が出てくる場合がいくつか出てくるということです。財政的にどんな背景になるのかは耐震調査をしてみて結果により補強にどれだけ必要かということになる訳です。セットでないと財政的な背景を伴ったことにならないという訳で、何ヶ月もかかってしまうということです。同時に全体計画の中で切り分けて進めることの出来るものについては、調整が整えば議会にお願いをしていくというような姿勢もあります。丹後町の竹野小についてそういったことが出来るかどうか調整しているところです。出来れば切り分けて条例を出していきたいです。

(出席者) よく分かりました。ところで統合していく中において、財政だと思うんです。財政を作り上げていく。市議会でもやられたと思うんです。それをやっていくのが教育委員会だと思うんです。これだけの学校には財政が要るんだと。財政の関係でしっかり基礎を作ってやっていただかなければと思います。

(市長) おっしゃるとおりだと思います。全体の計画の際には、しっかりと財政的な状況はこうなるんだということを含みながら出ささせていただきたいと思いますし、その視点はとても大切だと思います。

(教育長) 第一小を分けて平均的な学校を作ったらどうかというご意見に対してお答えします。これは、大宮町の検討分科会でも熱心に検討していただきました。他の学校と比べると大変大きい。PTA活動にも支障をきたしたりするのではないかという意見がある一方、全国的に見たらもっと大きな学校が沢山あるということも考えて、第一小の分割は現実性が乏しいとまとめを出されたと思います。ご存知のように、網野小学校が南北に分かれる前、1,200~1,300の人数がおりました。現在は網野北小が292人、網野南小が247人、平成27年には北小が221人、南小が188人に減ります。第一小は549人ですが、平成27年には492人になります。バイパスもつき、工業団地もできということで可能性はありますけれども、約束できるものではない。網野も分けたのが良かったのかどうかということも話されたようです。推移が今はっきりと分からな

い中で、分けてしまってもた一緒にしなくてはならないということがおきないようにしなければならないということが大事ではないかなと思っています。

(出席者) 人口が減る話ばかり出ていますが、今ここにいる皆様は受け入れる側としてあまり問題点としてそこまで思っておられる人はいないと思うんですが、減ることばかり言われ、ずっと先に第二小学校が統合されることになった場合にまた同じ議論をしなくてはならない。第二小が100人を切るの小さい学校をひっつければいいという考えでは済まされないと。第一小は京丹後一のマンモス校でもこれから減っていくから触らなくて良いだろうということでは済まないだろうと思うんですよ。今良ければ良いという訳にはいかないと思います。もっと先を見据えて、今後失敗せずに済むことを、ずっと先を見据えないと、また同じ事が起こります。そこはしっかり考えて下さい。簡単に考えて、小さいからこことここをくっつける、大きいところは3クラス位だから、まだ規模が小さいから大丈夫だとかいうそんな問題ではなくてもっともっとしっかり考えていただきたいと思います。

(出席者) 三坂の岡田さん、奥大野の安田さんが言ってくれたんですけども、第三小、第二小のデメリットはよく聞くんですね。第一小は多すぎて目が行き届かないとか。第三小学校は小さすぎて競争意識が生まれにくいから、クラブ活動に参加して大きいチームと一緒にしていかなくてはいけないことがあります。第二小学校は良過ぎて、大宮中学校に行ったときにもう一つファイトのない子が多い。それぞれスケールのデメリットをよく聞くわけですね。「今日、学校の統合の話があるんです。」と年寄りに言うと、昔の話をしてくれました。「安田町長さんが大宮町は北と南の2つの小学校にしたかった。」と。安田さんが言うように、私は2校にして許される範囲で、第一小学校と第二小学校の規模を考えていくのがいいと思います。将来的にも3対2か、無理のないところでスケールを合わせていただかないと、そんな方向に合併問題を進めていただきたいと年寄りやお二人の意見を聞きながら思いました。

(出席者) 今の話を聞いていると、昔からのいきさつで2つで良かったのではないかということなんですけれども。学校がなくなれば、跡地の利用については白紙ですか。

(市長) 跡利用についてはとても大切な問題だと考えておまして、具体的にどうするのかということについては、皆さんの思いを聞かせていただき、地域の活性化のためにどういった跡地利用ができるのかを検討していきたいと思えます。まず足元の部分を見る目と、先を見る目と両方必要ではないかと思う中で、今回の統合については現状を踏まえながら近い将来を想定し、教育的観点を中心に検討すると同時に、長い目で見るときにどういう幅があるのだろうか

ということを思いながらさせていただくことも非常に大事だと思うんですけども、同時に私が冒頭に申し上げましたように、地域の活性化をしていかななくてはならないということで、産業のことをさせていただいておりますが、若い人が戻ってきていただけるような努力もしながらやっていくことだと思っております。長期のことについては課題があるかと思っておりますけれども、そういった中で2校が望ましいのではないかと考えているということでございます。

(市民局長) PTAのかたでご質問はありますか。

(出席者) 2校で結構です。けれども、大宮町の合併はずっと前に済んだことですからね。8つあった学校を2つにしてだんだん少なくなってくると。いじめというものがおきておるんです。もっと仲良くしてと。第一小学校は、良いと。文科省がどこの学校に行ってもいいと指導していると思うんです。ただ行く時にはその教育委員会に任すということがあるのではないかと思うんです。今では住所により行く学校が決まっている。第一小に行っている子は90%が公文等の塾にいつている、第二、第三の子は過疎で頭が悪い。そうじゃないんです。反対なんです。頭いいんです。そういう子はやっぱり頑張ってやっています。第一小で聞きますと、頭の良い子は「先生、それはどうに塾で習った」と。公文では3年先まで習わせているそうです。大宮町を2校にする場合、駅からこっちは第一小学校に行くんだということにできないか、答弁をお願いします。

(教育長) これを考えました時に、基本として考えたことがいくつかありまして、耐震の制度についてまだなかったもので、一つは新築・改築はないということをお願いしておりました。通学のねじれを作らない。学校を分割しない。ということも考えておりました。そして将来の人数がどうなるかということでございます。減るということで明るくないニュースですけれども、国立社会保障人口問題研究所というところが、2035年までの人口予想をしております。本当かというような数字が出ております。第三小での説明会では大宮町だけでなく、京丹後市全体で隣の町と一緒に考える必要がないのかという意見もございました。現在では町域をまたがって再配置をするということは考えないということを進めているとお答えしたのですが、将来を考えるともっともだと思っておりますが、現在の状況の中で思い切りにくいということもあります。

(出席者) 先ほどから減ることばかり言われますけれども、何回も言いますがけれども、第三小学校が減ってなくなる、今度第二小学校の番だというのは困るんです。第一小学校以前の方が多いですけれども、第二小学校の規模で子どもたちにはすごく良い環境で育っていると思っておりますけれども、それが先になって規模が小さくなって切り捨てられるというのがたまらないと思うんですよ。だからもっともっと考えようということが浮かばないのかなと思うんですけど

も。やっぱりそこは大事だと思います。今、考えておかないといけないことだと思います。

(市長) おっしゃることはよく分かります。長中期のことを考えてだと思います。教育長がおっしゃったこともそのとおりですし、他方でそうならないように懸命な努力をやっていかなければならないと思っています。京丹後市は魅力一杯のところだと思っていますので、直近での工業団地もそうなんですけれども、豊岡宮津自動車道がついたり、京都縦貫道がついたり、名古屋方面に行けるような道をつける等の環境が整うことで京丹後市が持っている素晴らしい環境、健康、癒しの価値が増していき、交流人口が増えてくる可能性を持ったところだと思っています。第二小・第三小校区は京丹後市の南の玄関口であり、定住人口が増える可能性は一杯あると思うんです。そうなれば、第三小の子どもたちのバランスも色々な可能性があると思います。そういう可能性を模索しながら、具体的に見通せる時期に構想を練っていくということが現実的かと思っています。いずれにしても問題意識を持ちながら、当面の対応としては10年位先であるとした時に、少なくとも今の趨勢が続くならばこういう状況になることを前提にした時には、まずはこれをやり遂げたいということでさせていただくのが一番良いのかなということで提案させていただいております。おっしゃっているのは中長期的な話として懸命な努力をし、まずは市全体の人口が増えることのためにしっかりとしていきたいと思っております。

(出席者) 統廃合はしていかななくてはならない状況だと思うので、これについては賛成です。単なる統廃合という考えで進められてきたのでは困りますし、子どもの数が今後どうなっていくかも分かりません。市長さんの言われるように10年先、15年先が見えず、第三小が第二小に統合という考えを出されていると思いますが、京都市内でも2校が1校になったという現実もありますし、単なる数のためだけの統合にはしないで欲しいと思います。15年先には大宮町には1校になると思います。

(出席者) 教育委員会に聞きたいと思いますが、大宮の3小学校の先生方は、この3校を分析されてどのように思っておられるのか、どのように教育委員会は判断されて統合を進めようと思っておられるのか聞きたいです。この機会でないで第一小の人数を分散するという事は出来ないと思うんです。我々の後を面倒見てくれるのが、子どもになろうかと思っています。子どものために統廃合を考えていただきたいと思います。迎える立場なので私は良いと思いますが、隣に第三小の方もおられますが言いにくいと思いますので私が代わりに言います。

(教育長) 安易な形での統合はしない。今の状況になってきた中で、何が子ども

ものためにとっていいのかを中心に検討してきました。学校が無くなることによって苦情をいただくというのも分かって進めてきております。子どものことを考えて、小規模ではできない大規模校の良さや、小規模校の良さも出しながら進めていきたいと考えています。大宮中学校に入った時に、1年から3年までの先生方が定期的に集まって、不登校等の問題についても足並みを揃えて取り組んでおります。教育委員で大宮中学校の授業を参観しましたが、中学生がこんな素晴らしい態度で授業できたらいいなと思いました。先生方には大規模校だからとか小規模校だからというのではなく、一生懸命やっただいております。

(市民局長) そうしましたら貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。冒頭申しました予定の時間となりましたので説明会を終了させていただきたいと思えます。

(教育長) 一つだけよろしいでしょうか。第三小学校が第二小学校へという話は、第三小学校の理解を得られてからの話ですので、まだ決まった訳ではございません。第三小学校へは、第二小学校の説明会では快く、そういうムードであったと伝えたいと思えます。

(出席者) こっちが向こうへ行くというのはいないですね。向こうへ行くということになれば反対せんなん。

(教育長) 第三小の了解が得られればということで、よろしくをお願いします。

(出席者) 再配置の検討に関わらせていただいものとして一言言わせていただきます。分科会では忌憚のない意見を出してもらって検討をしてきました。本日の説明会で安易な計画という言葉が2回も出たということについては、決して安易に数合わせで検討した訳でなく、1年少しの期間の中で、大宮としてはどうあるべきか、ということを実際に検討してきた結果であるということで、これだけは伝えさせていただきたいと思えます。

(市民局長) それでは、以上をもちまして説明会を閉会とさせていただきます。閉会にあたりまして米田副市長よりごあいさつ申し上げます。

閉会 21 : 07分